

あの時、郵便局で。

作
スズカチヒロ

登場人物

局長

沙織（局員）

大輔（局員）

健太（依頼人）

場所 町の小さな私設郵便局

零場

郵便局前。局員の沙織と大輔が、競うように新品の便箋を配っている。しかし、受け取るものは誰もいない。

音楽「プリーズ・ミスター・ポストマン」カーペンターズ

沙織

お願いします、お願いします。お手紙書きませんか？ 便箋プレゼントしてしま

大輔

す、お願いします。あ、よかったら、あ、結構ですか……お願いします
お願いします。あ、お姉さん。便箋とかどうですか？ え？ もう済ませた？ いい
じゃないっすか、二通目！

大輔
沙織

ちよつとやめなよ大ちゃん。居酒屋のキャッチじゃないんだからさあ
あ、お姉さんかわいいっすね。これから一緒にお手紙書きませんか？

大輔 お客さんにどんどん絡んでいく。
おそらくお客さん、もらってくれる。

大輔

え、あ、受け取ってくれる？ それってどういう……俺！ あと三十分くらいしたら仕事
終わるんすけど！ そしたら一緒にお手紙書いてくれる？ え、俺に？ 俺に書いてく
れるの？ 沙織ちゃん！

沙織

なに？

大輔

もらってくれた！

沙織

え、ずるい！

大輔

約束、忘れてないよね？（ニヤリ）

沙織、血相を変えて配り出す。

沙織

……もちろん！

第一場

ギターを担いだ局長、入り。

大輔

あ、もう局長！ どこ行ってたんすか！

沙織

見てください、これ。今日も全然ダメ。このままだとこの郵便局本当に潰れちゃいますよ、

局長

そのことなんだが、

沙織

だいたい無理がありますって、ねえ？

大輔

ウンウン

沙織

私たちの本来の業務は、誰かが誰かに宛てて書いたお手紙をお届けすることです。郵便局の前で、新品の便箋を不特定多数の人物に配りまくることはないはずですよ！

大輔

俺なんて、「ビラなら他所で配れ！」って今日怒鳴られたんすからね！ ビラじゃねっつもの！ 便箋配ってるだけだっつもの！ 局長っすからね？ 言ったの。(局長の真似をしながら)「登山家がよく言うじゃないか。山に登るのは、そこに山があるからだって。同じじゃないか？ 手紙を書くのは、そこに便箋があるからだ」

大輔、局長、口を揃えて

大輔

だったら、こちらが便箋を配ればいいんじゃないか。

局長

だったら、こちらが便箋を配ればいいんじゃないか。うん、確かに言ったね

沙織

その結果がこれです。ほら！ こんなに残っちゃった！(便箋が入っている紙袋を見せる)

局長

すまない、そのことなんだが、

沙織

本気でどうにかしないと、この郵便局潰れますよ

大輔

潰れる？！

沙織

そうだよ、大ちゃん。あんたが思ってるよりかなり状況は深刻だよ？！

大輔

俺、殺される！

沙織

誰によ。借金でもしてるの？

大輔

どうしよう、まじでやばい！

沙織

なに。ほんとに借金してるの？

大輔

いや、あの、うん。ちよっと、ほんとちよっとだけ

沙織

うわ、まじか。なににそんなお金使ったの

大輔

え？ いや、ちよっとね。転職？ 転職とか考えた方がいいやつかな？

沙織

かもよ？

大輔

局長！ 少しだけでいいんです。給料あげてもらえませんか？

沙織

あ、ずるい！ 私も！！ 私もお願ひします！！

局長

君たちちよっと、

沙織 あ、こんなこと話してたらもうこんな時間だ
大輔 ほんとだ、どうする？

沙織 行くに決まってるじゃない！ 多く使箋配った方が勝ち、配れなかった方がおごりで
飲みに行くって。負けたからって大ちゃん、逃げられはしないんだからね

局長 君たちちよつと話をだね、

大輔 そんなー！ 逃げるつもりなんてないよ！

局長 (怒りながら) 少し話を聞きたまえー！！

一同、静まる。

局長 君達二人に大事な話がある。

沙織 なんですか、改まって。背中に担いだギターのことですか？

局長 いいから聞きなさい。

大輔 (沙織に耳打ち) なんか怒ってない？

局長 怒ってはいない。いや、怒ってはいる！ 君たち、人の話をもう少しちゃんと聞いたら
どうなんだ！

二人 すみません

局長 全く、人が今からこの郵便局を閉鎖すると言う話をだな

沙織 え？

局長 あ

沙織 局長。

局長 なんだね、沙織くん

沙織 今、なんて？

大輔 本当に潰れるんだここー！！！！ どうしよう！

局長 そう決まったわけじゃないが、

沙織 そんな……そんなの、聞いてません

局長 今言ったんだ。いいか、君たち。この郵便局は本日をもって閉鎖とする。

沙織 なんですか、なんで閉鎖するんですか。私たちが便箋捌けなかつたからですか

大輔 頑張ります！ 俺、もつと頑張りますから！ 無職だけはお願い勘弁して！

局長 そう言うわけじゃないんだ

沙織 じゃあ、なんでなんですか

局長 非常に言いづらいんだが、

大輔 このままじゃ夜しか眠れませんか！

沙織 充分でしょ

局長 シンガーになりたいんだ

音楽「」

しばらくの間。

沙織と大輔、拍子抜けして言葉が出ない。

局長 君らも知っての通り、私はもともと音楽が好きなんだよ大好きなんだ。今のご時世、夢を追うのに年齢は関係ないって言うじゃないか

沙織 日本郵政グループじゃないんですよ

局長 それがどうした

沙織 局長が、わざわざ立ち上げた私設郵便局なんじゃないんですか、ここは

大輔 (局長の真似をしながら) この郵便局は本日をもって閉鎖とする(一人で面白くなって

沙織 笑い転げる)

大輔 いや、大ちゃん。全滅笑えないからね？

沙織 え、めっちゃ似てない？ 俺、局長の真似ちようまくない？

大輔 借金どうすんの。無職確定だよ

局長 それはまずい！ 局長！

沙織 私から話すことはなにもない。

ちよつと局長

健太、恐る恐る入り。手には手紙を持っている。

健太 あの〜……

大輔 ね、沙織ちゃん、(沙織にお客様がきたことを伝えようとする)

健太 あの〜

沙織と局長、健太に気がつかずに話を続けている。

局長 何もないって言ってるだろ、沙織くん

大輔 お客さま。ね、お客さまがさ

沙織 だいたい局長が、

健太と大輔、二人同時に大声で

健太 あの！！！

大輔 お客さま！

二人同時に言ったので局長と沙織、なんて言ったのか聞き取れない。

健太 おい！

大輔 なに！

健太 かぶせんなんて！

沙織 (誰？ と言う顔)

大輔 さつきから言ってたんだよ？ でも沙織ちゃんたち全滅聞いてくれなくてさ

局長 さつきまで閉鎖と言っていたのが嘘みたいな胡散臭い笑顔で

局長 お客さま！

沙織 お客さま？ (大輔に) なんで教えてくれなかったのよ！

大輔 だから、俺はずっと言ってたんだって！

沙織 お客さま、大変申し訳ございません。当郵便局は本日を持ちまして閉鎖と、なったみたいなので、

健太 みたい？

局長 (咳払い) 沙織くん！

沙織 閉鎖となりましたのでこちらでの配達は、

局長 閉鎖がなんだったって？

沙織 だからするんでしょう？ 閉鎖

局長 初耳だな

沙織 今日自分で言ったじゃないですか！

大輔 大輔くん！

局長 はい！

局長 ここでのトップは？

大輔 局長です！

局長 ここでのルールは？

大輔 局長です！

局長 トップの言うこと？

大輔 絶対です！

局長 で、沙織くん。閉鎖がなんだったって？ トップの私が初耳だと言っているんだが？

沙織 ……

局長 沙織くん

沙織 こちらへどうぞ(案内する)

健太 いいんですか？

局長 いいんです。お手紙ですか？

健太 はい、幼馴染にどうしても伝えたいことがあって

大輔 〇〇〇すればいいのに！

沙織 郵便局員とは思えないセリフね

健太 なんかこう、恥ずかしくって。わかります？ 最初はそれで済ませようと思ってたんですけど、送信ボタンがどうしても押せなかつたんです。押す勇気が出なくて恋の匂いがする

沙織 ほう、いいですね。さしずめラブレターってとこですかな

局長 いえいえそんなー！！ そんな大層なものじゃありません。ただ、いざ手紙を書いてポストに入れようと思った時に、見つかなかつたんです。ポスト。おかしいですよね

大輔 ラブレターーの配達かあ〜！ やりがいある仕事っすね！

健太 いいんでしょうか
局長 なにがです？
健太 閉鎖、とか何とか
局長 いいんです！ 疲れて夢でも見たのでしょうか？
沙織 はあ？！ どの口が言うんですか！
局長 私の口です。恋に期限はつきものです。早ければ早いほどいいと言うわけでもありませんが、出遅れたならそれまでです
健太 だから、そんなんじゃないですから！（決め台詞）

音楽「」

マイクパフォーマンス

幕は切って落とされた！
始まりました（公演名）！
咲かせて見せます 恋の花
繋いで見せます 想いと想い
街の小さな郵便局がお助けする 一人の少年の積もり積もった恋心
お送りしますは、人と人の物語
赤く揺らめく小さな情熱は人間の原動力となるでしょう
郵便局局长に（役者名）（SE: 爆発音）
局員沙織に（役者名）（SE: 爆発音） 同じく大輔に（役者名）（SE: 爆発音）
少年は男になれるのか！ 健太少年に（役者名）（SE: 爆発音）
人と人が惹かれあい 想い合うこの気持ちを恋と呼ばずになんと呼ぶ
自信を持ってお送りしますは 手紙が繋ぐ人の想いの物語
『あの時、郵便局で。』今、この物語の幕が開く！（SE: 爆発音）

健太 それより、ポストです。この辺で一番近いポストってどこだったんですか？
局長 ありません
健太 見つけらんなくてここに直接来ちゃったんですけど、……え？
大輔 ポストならないっすよ
健太 ちょっと待ってください？ ここ、
大輔 郵便局です
健太 なのにポストが？
大輔 ありません
沙織 それも思ってたんですよね。お客さんがこないって言うか。そもそもポストがないんだから仕事がないって言うか。まあ、配達だけが業務ではありませんが。
大輔 局長が金がねえって売っぱらっちゃったんですよね！

局長 大輔くん(咳払い)

健太 郵便局が? ポストを? 売った?

局長 大輔くん、余計なことは言わなくていいんだ

大輔 あれまたやっちゃいました? よくやるんですよ、俺、バカだから(楽しそう)

局長 なに、さほど重要なことでもないでしょう、ポストなんて

健太 かなり重要なことだと思えますけど

局長 (棒読み) ハハハハハ。沙織くん、お茶は?

沙織 え?

局長 お客さまにお茶をお出ししなさいと言っているんだ。なんだね? この郵便局はお茶

も出ないのかね?

沙織 出ません(即答)

局長 沙織くん? いけないな、耳が遠くなったようだ。沙織くん、お茶を

そんなもの買うお金がそもそもないと言っているんです

局長 おやあ?

沙織 聞こえてるんでしょう? 出ません。

局長 大輔くん

大輔 はいはい、お使い行けばいいんすね!

局長 なにを言っているんだ。大事なお客様にその辺で買ったお茶なんか飲ませられるわけ

ないだろう? 摘んで来なさい

健太 は?

局長 静岡の茶畑まで行って摘んで来なさい

大輔 はいはい、摘んでくればいいんすね!(はげようとする)

沙織 (慌てて大輔を止める) ちょっと局長、バカは冗談とかわからないんですから!

局長 私はいつだって本気だが?

沙織 嘘つき!

大輔 はげ

大輔 はげ

大輔 はげ

沙織 あ、ちよつと大ちゃん!

おーいお茶のペットボトルを持ってすぐに戻ってくる。

局長　　なんでしよう

健太　　手紙、どのくらいで届きますか

局長　　お急ぎで？

健太　　裕美子ちゃんが、

局長　　沙織、健太、声を揃えて

三人　　裕美子ちゃん！

健太　　そういうんじゃないですって！　幼馴染です。裕美子ちゃんって呼んでいるのでつい。

局長　　つい。それで？

健太　　結婚するんです。

三人　　ふう〜！！

健太　　違います！　僕じゃないです！　裕美子ちゃんからです！

沙織　　なんだ、違うの？

健太　　静岡の茶畑に嫁ぐらしいんです、それで

大輔　　え、静岡の茶畑？！

局長　　奇遇ですな

大輔　　じゃあアレ、裕美子ちゃんだったのかなあ

健太　　いや、アンタ絶対行ってないでしょ静岡

沙織　　恋の匂いがする。つまり、想いを密かに寄せていた幼馴染が静岡に嫁いでしまうので、

それを引き止める、プロポーズよりも熱い愛の言葉を手紙に綴ったと。

そんなんじゃないです！

本当に？

健太　　そんなんです……

局長　　言いましたね

沙織　　言いました

大輔　　録音しました

健太　　もう勘弁してください……彼女いるんです。もう。静岡に。式が始まる前にどうしても、
感心しませんなあ。花嫁の決意を鈍らすような真似を？

健太　　返す言葉ありません

局長　　いいじゃないですか！　静岡の茶畑。一面に広がる緑とそれを摘む彼女。そんな彼女を
見守るのは空高くそびえ立つ富士山です。その富士こそが僕です。富士を見るたびに思

い出してください。茶畑の兄ちゃんあになんかには負けない、僕の富士山よりも高い愛を！

(キメ顔)

健太 何言ってるんです？

沙織 でも、なんで今まで告白しなかったんですか？

健太 ずっと一緒にいた女の子だったんです。わからないじゃないですか。ずっと一緒にいたんですもん。いつから好きになったとか、わからないですよ。でも彼女が結婚するってなった時、僕、涙が止まらなくなっちゃって泣いたんですか

健太 引きました？

沙織 少し

大輔 でも、出会ってすぐに結婚とはならないでしょう？ 知らなかったんですか？ お付

き合いの期間があったに決まってるじゃないですか、その、茶畑の兄ちゃんあんと！

健太 恥ずかしながら

局長 もはや本当に幼馴染と呼べる関係なのか、甚だ疑問ですな

健太 もうやめてくださいほんとに！ で、いつ届くんですか

局長 伝説の飛脚は東京から大阪まで三日で走ったと言います

健太 まさか、走って行くんですか？！

局長 大輔くん、どのくらいかかる？

大輔 久しぶりの配達だからな！

沙織 すみません、最初はバイクとか自転車、使ってたんですよ？ でも、

健太 お金がないから売っぱらった。そうですね

局長 ご明察。それで？

大輔 丸一日あれば充分じゃないっすかね

健太 本当に人間ですか？！

沙織 怪しいです

健太 まあ、一日で届くんならなんも問題ないですし、……よろしくお願いします

健太 手紙を局長に渡す。

受け取った局長、間髪入れずに開封し声を出して読み上げる。

局長 裕美子ちゃん。お元気ですか、僕は元気です。

健太 ワー！！！！ ちょっと！ 何するんですか！！

健太 局長から手紙を取り戻そうとする。

が、しかし。可憐にそれをかわし局長、手紙を読み続ける。

局長 あなたが僕に何も言わずに静岡に行ってしまったから、もう三ヶ月が経ちました。未だに連絡をひとつもくれませんか。しっかりとやっていますか。

健太 ちょっと！ え！ なに！ なんて、人の手紙勝手に開けてるんですか！ え？ ち

よ、ええ？！

静岡の茶畑に嫁ぐそうですね。母から聞きました。おめでとう。

こわ

でも、理解ができません。静岡の彼の写真、母から見せてもらいました。納得いきません。なぜ、僕じゃダメなんですか。どう考えても僕のがかっこいいじゃないですか。かっこいいじゃないですか！ だって、僕のがかっこいいじゃないですか！

えーめっちゃ言うじゃん！（めっちゃ笑う）

僕はその彼と違って背だつて高いし、お金だつてそこそこあるし、ほら、お金だつてそこそこあるんです。

ボキャブラリーってどう言う意味だっけ沙織ちゃん。

煽りとかできるんだ大ちゃん

そりゃちよつとね、ちよつとだよ？ テンションが上がりがりきらないところがあるかもしれないよ、僕は。眠そうな声してるかもしれないよ。でも起きてるから！ 全然起きてるから！

沙織と大輔、途中で飽きて眠ってしまう。

健太 寝るなー！！ オイ、お前らが寝るな！ 俺が眠そうだからってお前らが寝るな！ 聞
けて！

局長 おやあ？ 聞いて欲しいんですか？

健太 ちが、そうじゃなくて！

局長 失敬失敬。いやまあ、感激しましたよ。どうやってこんな駄文が書けるんです？ ま

さか、その道のプロのお方？

沙織 どこからか色紙を取り出し、健太に差し出す。

沙織 サインください！

局長 やめたまえ、沙織くん。プロというものはそうやすやすと我々一般人にサインしてくれ
るもんじゃない。ここまでのプロとなるとね（笑いが堪えられない）

沙織 じゃあせめて握手だけでも（手を差し出す）

健太 （握手しながら）バカにすんのも大概にしるよ

局長 ほう？ それでも握手はする、と。

健太、慌てて振り払う。

健太 手紙、返してください。

局長 どうぞ？（返そうとする）

局長 フェイントをかけて健太の手紙を彼の顔の前でビリビリに破く。

健太

アーツー！！ おま、何してくれてんだよ！（慌てて拾い集める）ちょっと、はあ？！
ふざけんなよ！ 何破いてんだよ！ は？ おま、マジで、意味わかんねえ！

手紙をかき集める動作、まるで甲子園の土をかき集めている球児のよう。

大輔
甲子園の土（吹き出す）

局長
書き直せ。

健太
はあ？！

局長
書き直せって言ってるんだ。なんだ、今の。深夜のテンションで書きなぐったみてえな恥ずかしい文章はよ。テンション高いのか眠いのかどっちかにしろよ。ええ？ それで想いが届くとも思ってるのかよ

局長、今まではガラツと様子が変わり健太を椅子からけり落とす。

沙織、大輔、見られないと言った様子で隅に逃げる。

局長

こつちも仕事でやってんだ。あんな手紙じゃ、届くもんも届きやしねえ。書き直せ。今すぐ書き直せ。

健太
局長

な、なんなんだよお前！ほんと、（恥ずかしさで泣き出してしまつ）なんなんだよ！郵便局員です。沙織くん、女性の君がもし男性にあのような内容の手紙をもらったら？

沙織

（鼻で笑う）

局長

だそうだ。だそうだよ、健太さん。本当にこの手紙を裕美子ちゃんに届けるつもりだったのかね

健太

お前は裕美子ちゃんって呼ぶな！

局長

裕美子さん（わざとらしく）申し訳ありませんが健太さん。このような手紙を届けるわけにはいきません

健太

そりゃそうだよなあ？！ アンタ破いちまったんだからなあ？！ 物理的に無理だよなあ？！

局長

我々郵便局にもプライドってもんがありませんね

健太

何がプライドだよ。よく言うよ、じゃ僕は、どうすりゃよかったんだよ。そこまで言うなら責任とってくれるんだよなあ？！

局長

いいでしょう！ 我々郵便局が誠意を持ってあなたのお手紙、お助けいたしましたしやう！ ミュージック！（拳を突き上げる）

拳を合図に音楽がかかる

音楽「」

爆音。

沙織と大輔、冒頭で配っていた便箋のあまりを嬉々として持つてくる。

健太それを受け取り、床で書いては破り捨て、書いては破り捨ての繰り返し。

局長と健太、言い合いをしながらそれを続けているが、爆音のため何を言っているのかまでは聞き取れない。

局長、健太を蹴り飛ばす。転がる健太。

局長、はけ。

健太、局長とは反対側にはけ。

二場

沙織と大輔、舞台上に残される。

沙織 あーあ、またやっちゃった

大輔 いつものことじゃん

それが問題なの。お客さん来るたんびにこれなんだから。大ちゃんは言われない？ 近所のおばさんにさ、どこに勤めてるんですかって言われたから、その郵便局ですって答えたのよ、この間。そしたら「ああ、あの」って。なに？「ああ、あの」って！「ああ、あの」郵便局に勤めていますか？！

大輔 余ってたから有り難いっちゃ有り難いけど、ちょっと勿体無いよね

沙織 え、なに便箋の話してる？

大輔 違うの？

大ちゃんさあ、もうちよい人の話聞こっか？

大輔 またやった？ ごめん、俺、バカだから。わかんなくて！

沙織 ま、いいけどさ

ねえ、追いかけてあげようよ。かわいそうだよ

沙織 局長？

健太さんの方！

局長はどうすんのよ。ああ見えて繊細なんだから言いすぎた〜って裏で泣いてんじゃないの？

大輔 そうかなあ。局長は普通にタバコ吸ってるだけじゃない？

沙織 じゃんけんで決めよ

大輔 勝った方が、

二人、声を合わせて

二人 健太さん

二人、ジャンケンをする。パー、チョキ、グー、なぜかあいこが続く。

大輔 (あいこのじゃんけんを続けながら) 沙織ちゃん、なに？

沙織 この場合は？

大輔 気があうにも程つてもんがあるよね

沙織 この場合はどうなる？ もうエンドレスあいこなんだけど

ストップ。(ジャンケン止まる) 二回戦。勝った方が、

二人 健太さん

二人、ジャンケンをする。沙織 パー。大輔 チョキ。
膝から崩れ落ちる沙織。大輔 走り出したかと思えば、健太を連れて戻って来る。健太
両手に便箋を抱えている。

大輔 連れてきた！

沙織 追いかけるかどうかのジャンケンであって別に連れてこなくてもよかったですけど
大輔 そうなの？
健太 なに？ え、なに？

沙織と大輔 局長はりの不敵な笑みを浮かべている。

健太 なんなのこの人たち！

沙織 その便箋どうしたんです？

健太 いや、さっきの使っちゃったから、そこで

沙織 アレ全部使ったんですか？！

大輔 プロだもんね！

沙織 大ちゃん。

健太 書き直すんですまた。これから。何度でも。

大輔 すごい根性。

沙織 手紙かあ、なんか思い出すね

大輔 あーアレ？

沙織 アレでわかるの？

大輔 わかるよ。

沙織 本当に？ 度を過ぎた以心伝心は以心伝心にしかならないって言うのに

健太 それは結局以心伝心では？

大輔 アレでしょ？ あの、俺！ 俺、不登校だったんですよ

音楽「

笑顔で話し始める大輔。

沙織、健太の持っている便箋から一枚取り出し、それを読む体制になる。

大輔 俺、不登校だったんです。なんでかよくわからないけど、昔っから空気が読むの苦手で、
いらんことばかり言ってる。いじめです。いじめられてたんです俺。なんでも信じやすい
性格だったはずなのに、なに信じたらいいかわかんなくなっちゃって。その時なんです。
クラス委員の沙織ちゃんは毎日、家に閉じこもった俺にプリントを届けてくれました
た。そのうち、プリントと一緒に、手紙を書いてくれるようになったんですよ

沙織 おはよう

大輔 その手紙は、手紙と呼ぶには奇妙なものでした。必ず「おはよう」から始まり、「また
明日ね」で締めくくられるんです。内容も、全然手紙じゃないんです。ほら、普通不登

校のやつに書く手紙って「早く学校に来てね」とかじゃないですか。全然違うんです。違ったんです。

沙織 おはよう。今日さ、こんなことがあったの！

大輔 書かれていたのは、クラスの子と普段するような何気ない会話でした

沙織 それでさ、昨日のテレビがほんつとに面白くて！

大輔 それが俺、本当に嬉しくて。ポロポロ泣きながら毎日それ読んで。

沙織 おはよう！ おはよう！

大輔 思ってたんです。学校に行けば、沙織ちゃんは俺にきつとこうやって言ってくれる。おは

ようって言ってくれる。俺も。沙織ちゃんに言いたい。おはようって言いたい。

沙織 また明日ね

大輔 また明日ねって言いたい。

沙織 それで学校来るようになったの？

大輔 そうだよ。沙織ちゃんのおかげ

沙織 へえ（ちよつとにやける）

大輔 あ、今ちよつと口角上がった。……健太さん。俺にとつて手紙っていうものが大切になったのはそつからです。だから、なんて言ったらいいのかわからないけど、

局長 入り。相変わらずギターを担いでいる。

局長 それにしても面白い文章を書くよね、彼。

大輔 あ、局長

沙織 隠れて！

健太 隠れようとするが隠れるところがない。

局長 どう考えても、私の考える歌詞のがイカしてるでしょう。おやあ？

健太 ……

沙織 大ちゃんが！

大輔 ひどい！ ジャンケンで決めたのに！

沙織 それで大ちゃんが！

大輔 勝つたのに負けた気分！

局長 まあ、いいでしょう。この二人になにを言われたのかは知りませんが、文章は作詞と一緒に、どちらも努力すれば変化していくが最終的にはセンスがモノを言う。聞いてきますか？ 新作です

局長 ギターを取り出し歌う体勢になる。

健太と沙織 二人で

健太

結構です

沙織 結構です

大輔 お願います！

沙織 ちよっと！

大輔 いいじゃん。局長、上手いんだし

局長、歌い始める。かなり大音量。

沙織、局長の歌の上にかぶせて話始める。

沙織 大ちゃん！

大輔 ん？

沙織 さっきの続きなんだけど！

大輔 え？ なに？

沙織 さっきの続き！

大輔 ごめん、聞こえない！

沙織 さっきの続き！

大輔 あ、聞こえた！

沙織 もう！ だからやだったのに！

大輔 ちよっと待ってて。(大声) 局長！ 今のところ超痺れたっす！

局長 (演奏を止める) わかる？

大輔 そう言う時はこうやるんだよ

沙織 すごい！

大輔 すぐくはないよ。だって、持続しないんだ。

局長 じゃあ、ここはどうか？ 君らにわかるかな〜！ (演奏再開)

大輔 ほらね！

沙織 ほんとだ！

二人、しばらく局長の歌を聴いている。

健太、机に向かい手紙を書こうと試みる。

沙織 ねえ！

大輔 なに！

沙織 聞こえる？

大輔 もうちよい近づいて！

沙織 (近づく) 聞こえる？

大輔 (頷く)

沙織 あんたが不登校になったのってさ、いじめが原因だったじゃん！

大輔 うん！

沙織 いじめってなんでか知らないけど、ターゲットがいなくなるとまた新しいターゲットができるんだよ！

大輔 それは悪いことをしたなあ！

沙織 いいの！

大輔 え？

沙織 私なの！ 新しいターゲット、私だったの！ ねえ、大ちゃん。なんで手紙が「おはよう」から始まって「また明日ね」で終わってたんだと思う？ なんで、クラスの友達に話すような、何気無い会話を書いてたんだと思う？ なんで「早く学校おいで！」みたいなこと書かなかったんだと思う？ あの手紙は！ あの日々は！ 私が死ぬほど望んでいた毎日だったんだよ！ だから、あなたが学校にきてくれた時、クラスで空気がたいな存在になった私に「おはよう」って話しかけてくれた時、私は、届いた！ って、私の想いは届いたんだってそう思ったの！

大輔 沙織ちゃん、

沙織 だから私はここにいます。手紙の力を、想いの力を信じた

二人、泣いている。話を聞いていた健太も泣いている。

局長、歌い終わる。

局長

サンキューベイベ〜！ ……え、泣くほど良かった？

三場

机に向かい手紙を書いている健太。が、筆が一切進んでいない。
それを覗き込む局長。

局長
白紙の愛ですかあ
健太
うるさい！ 今書くんだよ！

しばらくの間。それでも書けない。
健太、ちよつとためらつた後に勢いよく局長に土下座をする。

健太
お願いします！
局長
(ニヤリと笑う)

音楽「

健太
お願いします、力を貸してください。アンタみたいなやつにこんな事言うのすげー癪に
触るけど、頼む。言葉が出てこないんだ。裕美子ちゃんのことこんなにも好きなのに、
なんで書けないのか自分でもわかんない。あるんだよ。書きたいことは確かにあるん
だ。自分の気持ちを言葉にできないのがこんなにもどかしいだとは思わなかった。手
紙が破られ散つたのを見た時、ああ、僕の恋も散るんだって、そう言うことなんだって
思つたんだけど、それじゃ嫌なんだよ！

局長
やつとそこまで来ましたか
健太
え？

局長
愛です。必要なのは愛なんです。健太さん。いいんですよ、不格好でもいいんです。格
好つける必要なんて、ないんですよ。そのままの想いを綴るだけでいいんです

健太
それが出来たら苦労しねえよ……

局長
沙織くん、大輔くん。“アレ”いきましよう

沙織
あんまり得意じゃないんだよなあ

大輔
おー！！ なんか久しぶりっすね！

健太
アレ？ アレってなんだよ

局長、沙織、大輔、ダンスのポジションになる。

健太
おい！ 答えろよ！
局長
まあ、見ていてください。迷ったときは、歌うか踊るかです

音楽「

局長、踊る。沙織と大輔はバックダンサーとして踊る。
踊り終わる。三人、満足そうな顔をしている。

健太 あんたら、いつもそんなことやってるんですか
局長 いつもやってるのかと聞かれれば(キメ顔) いつもやっています
大輔 採用試験にダンス審査ありましたもん！ 今、俺、結構上手くできた
局長 まずは、そうですね。手始めに裕美子さんとの恋路の全貌をお聞かせ願えますか

沙織と大輔、席を用意する。
四人が席につける状態になる。

局長 いつから恋心を抱いていたのかわからない、そうおっしゃっていましたね
健太 はい

沙織 本当は？
健太 え？

沙織 本当は違うでしょうか？ いつも一緒にいたからわからない、だなんて最もそんな主張ですけれど本当は違うでしょうか？

局長 おそらく健太さん、あなた裕美子さんとお付き合いをしている“つもり”だったんじゃないですか

沙織 え？ どう言うことですか？

局長 いわゆる彼氏ツラです。いつもそばに居てくれた彼女に彼氏ツラをしていた。いつも隣にいてくれた彼女は自分から離れるわけないと、そう勘違いしていた。

沙織 正直引きますね、それ
健太 返す言葉ありません

沙織 言わなかったんですか？ 好きだって。一度も？

健太 はい。言わなくても伝わっているものだと
大輔 出たよ男女の認識の違い

局長 ほう。大輔君はわかるんですか？

大輔 沙織ちゃんと長く一緒にいればなんとなく
沙織 誤解が生まれる言い方はやめて。

大輔 ごめん
局長 想いは伝えるものです。抱いた後に伝えるまでがひとセットなのです
沙織 裕美子ちゃんって可愛いんですか？

健太 えっ、

大輔 そりゃ可愛いんじゃないの？ 健太さんがこんなにも好きならひとなんだから
局長 だから僕は好きとは言ってな、……あ、はい。ごめんなさい。好きって言っていない僕が悪いんです。可愛いです。いやもうたままねっす。大好きです。本当に僕の、僕の太陽だったんです、

沙織 おおおく！ これこそ恋バナー！
局長 沙織くん

沙織 すみません、つい

健太 それで！ 僕どうすればいいんですか！

局長 まあ、そう焦らずに。そう言う時は、歌うか踊るかするといいですよ。ミュージック！

音楽「」

沙織と大輔も、踊ろうとします。

健太 ストーツプー！ それはアンタたちだけだろう。

局長 そうですね、沙織くん、大輔君。お客さまにこの郵便局の社訓を教えて差し上げて。練習通りに頼みますよ

二人 はい（立ち上がる）

局長 ひとつ！

沙織 お客さまのお手紙は誠意を持ってお届けする

大輔 お客さまのお手紙は誠意を持ってお届けする

局長 ふたーっ！

沙織 届かなくていい思いなんてない

大輔 届かなくていい思いなんてない

局長 みっっー！

沙織 白ヤギさんたら読まずに食べた

大輔 黒ヤギさんたら読まずに食べた

健太 ふざけてんのか！

局長 そうですよ、あんなだけ揃えて言えるようにしておけって言うておいたのに！

健太 そうじゃないだろ、なんだよ3つ目

局長、沙織、大輔、三人同時に

沙織 白ヤギさんたら読まずに食べた

大輔 黒ヤギさんたら読まずに食べた

局長 やだアタシったら読まずに食べた

健太 おい！！

局長 なんです？

健太 もういいよ、僕が間違っていました！ アンタらに頼むんじゃないかった！ 返せ！ 僕の土下座を返せ！

健太、はげようとする。

局長 もう答えは出ているんじゃないですか
健太 え？

局長 もう答えは、出ているんじゃないですか
健太 どう言うことですか

局長 想いを伝えると言うことは、楽なことではありません。少しばかりの勇気が必要とする
ものです。ですがあなたはおっしゃいました。彼女は、

健太 彼女は、僕の太陽です。可愛くて、笑顔が眩しくて、いつも一緒にいてくれた大好きな
ひとです。

局長 それが全ての答えです。行きなさい。

健太 え？

局長 大輔君、

大輔 はい！

局長 一日走れば、静岡まで着くといいましたね

大輔 はい、そのくらいあれば俺なら。

健太 走れって言うんですか

局長 青春物語に走るシーンは必要不可欠では？ ……冗談です。なあと、静岡だなんて、そ
う行けない距離でもないでしょう。惚れた女に気持ち伝えんだ。ここならなんだってで
きる。ここは（溜めてから）花の都大東京なんですから

音楽「」

局長 東京駅から東海道新幹線で約一時間半、想いを伝える決心をするには充分すぎるく
らいです。連れ戻すんでしょう？ 大輔君！

大輔 はい！

局長 東京駅まで送って差し上げて、
大輔 でも、
局長 裏に赤い車が止まっているはずですよ。郵便局の赤は情熱の赤。君が借金なんかしなくて

大輔 も、ここは大丈夫です。彼らとは話はつけておきました

局長 ー！！

局長 なあと、ここを潰すなんてこの私が許しませんよ。このくらい造作もない。ちなみに言
いますと、シンガーになりたいと言うのは本当のことであって嘘です。来てたんです
よ、閉鎖の通知が。送信ボタン一つで想いが伝えられる現代に必要ななんて言うんでし
ょう、郵便局なんて。なんのために私がこの郵便局を作ったと思ってるんですか。なん
のしがらみもなく、ただ純粹に、想いを伝えたい人々に寄り添う場所が、人が、必要だ
と思っただからです。沙織くん、

沙織 はい

局長 式を遅らせる必要があります。工作はできますか。

沙織 はい

局長 私の名前を出せば大丈夫なはずですよ。お客さま、

健太 健太です

局長 健太さん、久しぶりに楽しい仕事ができました。一時はどうなるかと心配しましたが、
あなたならできるはずですよ。ここへ戻ってきた、あなたならば。届かなくていい想いな

健太

んてあつてはいけないのです。私たちの仕事は、人と人との想いを繋ぐこと。もう一度
言いましょ。郵便局の赤は、

情熱の赤。

局長

あなたもわかってきましたね。

健太

あの、アンタ一体

局長

街の小さな郵便局の、ただの局長です。さあ、

音楽「」

健太

ありがとうございました（一例）

健太、大輔と共にはげ。

局長、ポケットからタバコを出して一服。

沙織

よかったですか？ 私たち、郵便局員なのに

局長

いいんです。いつも言っているでしょう？

沙織

郵便局員は手紙を届けることだけが仕事じゃない。

局長

想いを届けるのが仕事だ。これも立派な仕事です。沙織くん

沙織

はい

局長

頼みましたよ

沙織

はい

沙織、はげ

局長、タバコをふかしながら音楽に浸る。（かなりたつぷり時間をとる）

局長、客席に向かってニヤリとキメ顔してからはげ。

完

本作品を上演する場合は、事前に許可を得てください。

劇団天の河神社

Mail address

info.gekidan.amanogawazinzya@gmail.com

ホームページ

<https://amanogawa77.amebaownd.com>